

新居道下遺跡

般国道52号（甲西道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

1994.3

山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所

序

新居道下遺跡は、甲府盆地西部の山梨県中巨摩郡若草町に所在し、すぐ西には櫛形山を望む御動使川の大扇状地に位置しております。本遺跡の発掘調査は、一般国道52号（甲西バイパス）建設工事に伴い、平成3年度から3年間にわたって実施され、平成5年度で調査も終了いたしました。この報告書は平成5年度分の調査の概要であります。

今回の調査では古墳時代後期の住居跡と遺物が多く出土しており、過去にこの遺跡の発掘調査により得られた平安時代の資料に加えて、峠西地域の当該期の資料が徐々に蓄積されてきたことになります。更に古墳時代の層位より下から弥生時代の包含層も発見され、一部に溝状の遺構も確認されました。新居道下遺跡のすぐ北に位置する村前東遺跡でも同時期の資料が出土しており、共にこの地域での弥生時代研究の基礎となる資料と思われます。

いずれは3年間の発掘調査の成果も一冊の報告書にまとめられることになるでしょうが、今回の調査概報も多くの方々の研究の一助になれば幸甚であります。

末筆ながら、種々ご協力を賜りました関係機関各位、地元の方々並びに直接調査、整理に従事していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

1994年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚 初重

目次

1. 調査の経過
2. 遺跡をとりまく環境
3. 発見された遺構と遺物
4. まとめ

例言

1. 本書は、1993年度（平成5年度）に実施した山梨県中巨摩郡若草町十日市場に所在する新居道下遺跡の発掘調査概報である。
2. 調査は、一般国道52号（甲西道路）改築工事に伴う事前調査であり、山梨県教育委員会が建設省より委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 本書の執筆・編集は米田明訓・高野政文が行った。
4. 本報告書にかかる出土品・図面・写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

1. 調査の経過

現在の一般国道52号は韮崎市と静岡県清水市とを結ぶ流通上・交通上の重要な幹線道路である。しかし全体的に道路幅は狭いうえ、山梨県内に入ると市街地の中を通過する箇所が多くなり、交通安全の面からも市街地を避けたより幅の広いバイパスの建設が求められていた。

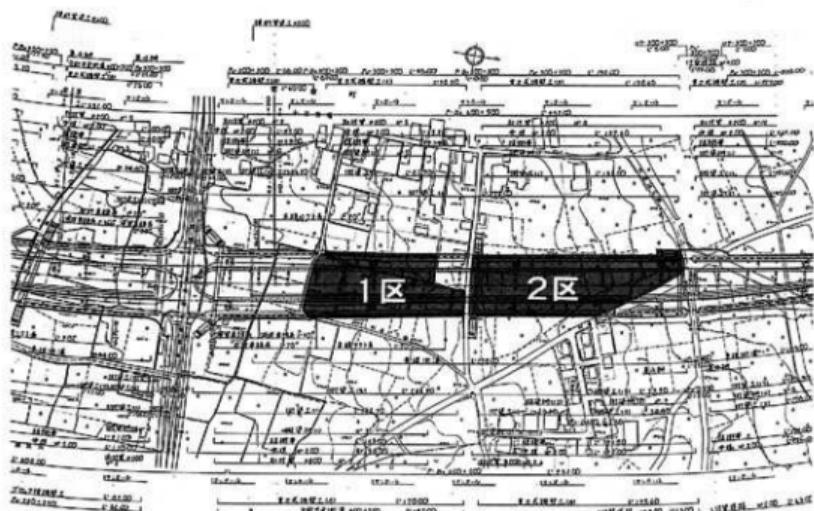
この国道52号のバイパス建設に伴って、甲府盆地西部の陝西地域では数多くの遺跡の発掘調査が実施されることとなったが、新居道下遺跡もその中のひとつである。平成元年度と平成2年度にバイパス建設予定地の試掘調査を実施し、遺跡の存在を確認した。発掘調査は平成3年度から開始し、途中に一時甲西町の向河原遺跡の発掘調査が入り中断したが、平成5年度中に予定の区域の調査を終了した。

遺跡の調査を進めるにあたり県道韮崎・横形・豊富線と、そこから北へ200mのところを東西に走る町道との間を1区、その町道から北側の部分を2区とした（第1図）。平成3年度には1区の大半と2区の南半分を、平成4年度には2区の北半分の第1層目（平安時代の包含層及び集落跡）を、そして本年度は1区の未調査部分と2区の北半分の第2層目以下（古墳時代以前の包含層及び集落跡）を調査した。平成3年度の調査では近代の粘土探査坑が3基発見されたが、それ以降は古墳時代後期から奈良・平安時代の住居跡群を主とする集落跡が確認された。遺構確認面が年々深くなつたため今年度は遂に地下水が大量に出水し、調査の進行に多大な影響を与えた。そのためやむを得ず調査区域の周囲に排水用の溝を掘ることにしたが、それにより更に下層の弥生時代の遺物包含層の存在が明らかになった。なお、平成5年度の調査は9月1日に作業を開始し、12月27日に終了した。

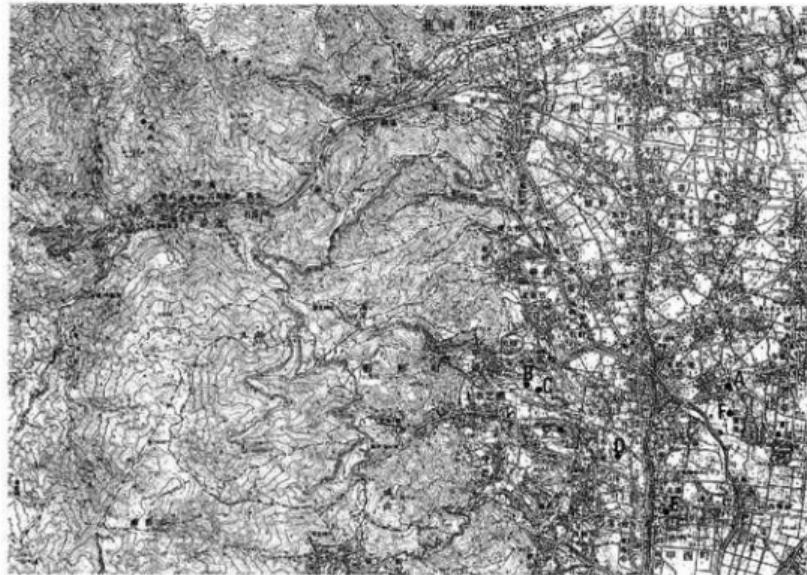
2. 遺跡をとりまく環境

新居道下遺跡は甲府盆地西部、富士川（釜無川）右岸の若草町に位置し標高は約270mを測る。この御動使川扇状地は遺跡より北西に広大に展開しており、その規模は日本最大である。遺跡は扇状地扇端部に形成された北西から南東方向へのびる微高地に展開する。この先端部にあたる地域には水量の豊富な湧水帯が存在している。過去に実施された周辺の試掘調査の結果では遺跡北側では御動使川の氾濫で運ばれた礫層が厚く堆積し、南側では泥炭層が堆積していることが明らかになっている。また湧水帯の存在を証明するように遺跡南の県道を境にその南側の地域には水田地帯が広がっている。

新居道下遺跡の周辺の遺跡についてみてみよう（第2図）。この地域ではまだ遺跡の発掘例が極めて少なく、本格的に類例が増加したのは甲西バイパス建設に伴う調査が開始されてからのことである。しかし分布調査や数少ない発掘例により遺跡の傾向はおおよそ把握することができる。若草町自体は扇状地及び冲積低地のみで構成されており、存在する遺跡も弥生時代以降に限られている。先土器時代や縄文時代の遺跡は遺跡西方の市之瀬台地およびその周辺の山間部のみ立地している（B：長田口遺跡、D：木ノ木遺跡）。弥生時代になって台地・山間部以外に扇状地扇端部にも遺跡の進出を見る（A：新居道下遺跡、C：六科丘遺跡、E：住吉遺



第1図 遺跡調査区



第2図 周辺の遺跡

跡）。古墳時代以降になると扇状地全域へ広範囲に拡大していく。そして先端部の湧水帯付近には当遺跡のような大規模な集落遺跡が形成されるようになる。このような傾向は甲西バイパス建設予定地の遺跡群を見ても認めることができる（第3図）。

- 1、七ツ打C遺跡（近世）
- 2、十五所遺跡（古墳）
- 3、村前東A遺跡（弥生、古墳、平安）
- 4、新居道下遺跡（弥生、古墳、奈良、平安）
- 5、二本柳遺跡（弥生、古墳、平安、中世、近世）
- 6、向河原遺跡（弥生、中世、近世）
- 7、油田遺跡（弥生、古墳、平安）
- 8、中川田遺跡（弥生？、平安、近世）
- 9、大師東丹保遺跡（弥生、古墳、平安、中世、近世）
- 10、宮沢中村遺跡（近世）

3. 発見された遺構と遺物

今年度の発掘調査では弥生時代の溝跡2、奈良時代と思われる住居跡1、古墳時代後期の住居跡3が発見された。ここでは主として古墳時代後期の住居跡群のうちの2基の一括出土遺物を紹介する。

〔45号住居跡〕（第5図・図版1～3）一辺が約250cmほどの小形の隅丸方形プランを呈する住居跡である。カマドは北壁の中央からやや東寄りに存在するが、石組は確認できない。出土品は土器類で、カマドの周辺に壺形土器が2個体潰れていた。杯形土器は8枚が重ねられて置かれていた様子である。

1と2の壺形土器はいずれも同じ特徴を示している。外面は口縁部がナデ調整、以下は刷毛調整で底部には木葉痕が残る。内面は刷毛調整である。胴部下半に膨らみを有する特徴的な器形である。胎土は砂が多いもののキメが細かい。色調は二次焼成を受けており赤褐色を呈する。一人の人間が同時に作成したような印象を受ける。3・5～10・12の8個体が重なるように置かれていた杯形土器である。いずれの土器も胎土は非常に緻密で小石などは全く見られない。焼成も良好でしっかりした製品である。12のみが内外面共に黒褐色を呈するが、他のものは内面が赤褐色、外面が暗褐色で、外面の黒さはススのようなものが付着していることによる。内面にもその痕跡が残るものが多い。器形の特徴としては底部が平らになり全体として偏平な形になっているほか、口縁部直下が外に膨らんでいる。4は大形の杯形土器である。色調・胎土ともに12の土器に近く黒褐色で艶がある。いずれの土器も外面下半はヘラ削り、外面上半と内面はナデにより器面調整されている。

〔46号住居跡〕（第6図・図版4）一辺が約500cmほどの隅丸方形プランを呈する。この時代



第3図
甲西バイパスの遺跡群

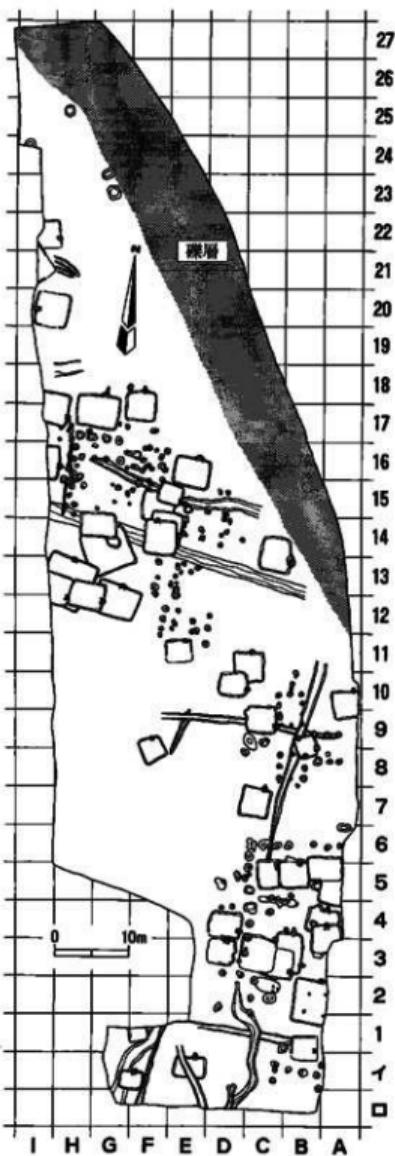
のものとしては珍しく西壁にカマドを有する。やはり出土品は土師器である。

1の壺形土器は外面刷毛調整で頸部のみナデが行われている。内面は口縁部と底に薄く刷毛目を残して他はヘラで磨かれている。外面は暗褐色、内面は赤褐色を呈する。2の土器は胎土に大量の小石を含んでいる。内外面とも粗い刷毛調整が行われているが、外面は刷毛目が見えなくなるくらいにナデ調整が為されている。色調は内外とも暗褐色。3は小形の壺で外面と内面口頸部が刷毛調整、他はナデ。小形ではあるが二次焼成を受けているようである。4は鉢形土器で内外面刷毛調整後に外面と内面下半分をナデ調整、胎土は堅緻で焼成も良好である。5-11の杯形土器は外面下半部はもともと全てヘラ削りされていたと思われるが、表面が非常に良く研磨されていて一部に削りの跡が不明瞭になっているものがある。12は高杯形土器の脚部。

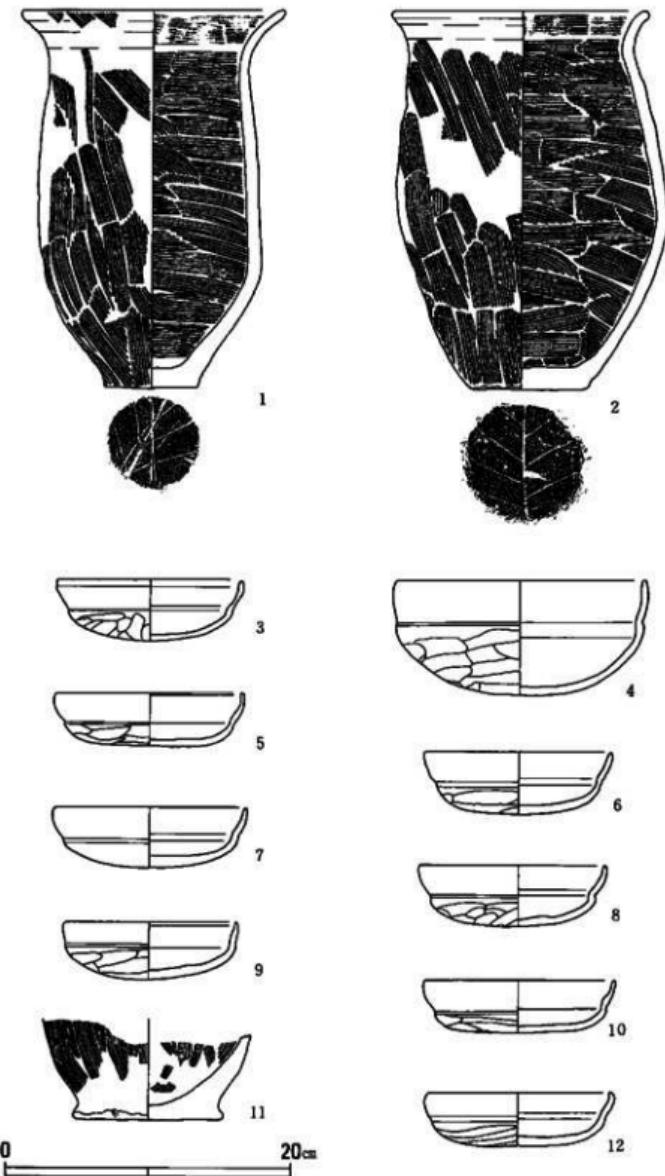
45・46の両住居跡の土器については杯形土器と壺形土器の両者と共に若干の差異はあるものの、ほぼ同時期のものと考えられる。およそ7世紀の後半台のものと思われるが、当該地域では類例が少ないために、他地域との類似点だけでは判断できないところがある。

4. まとめ

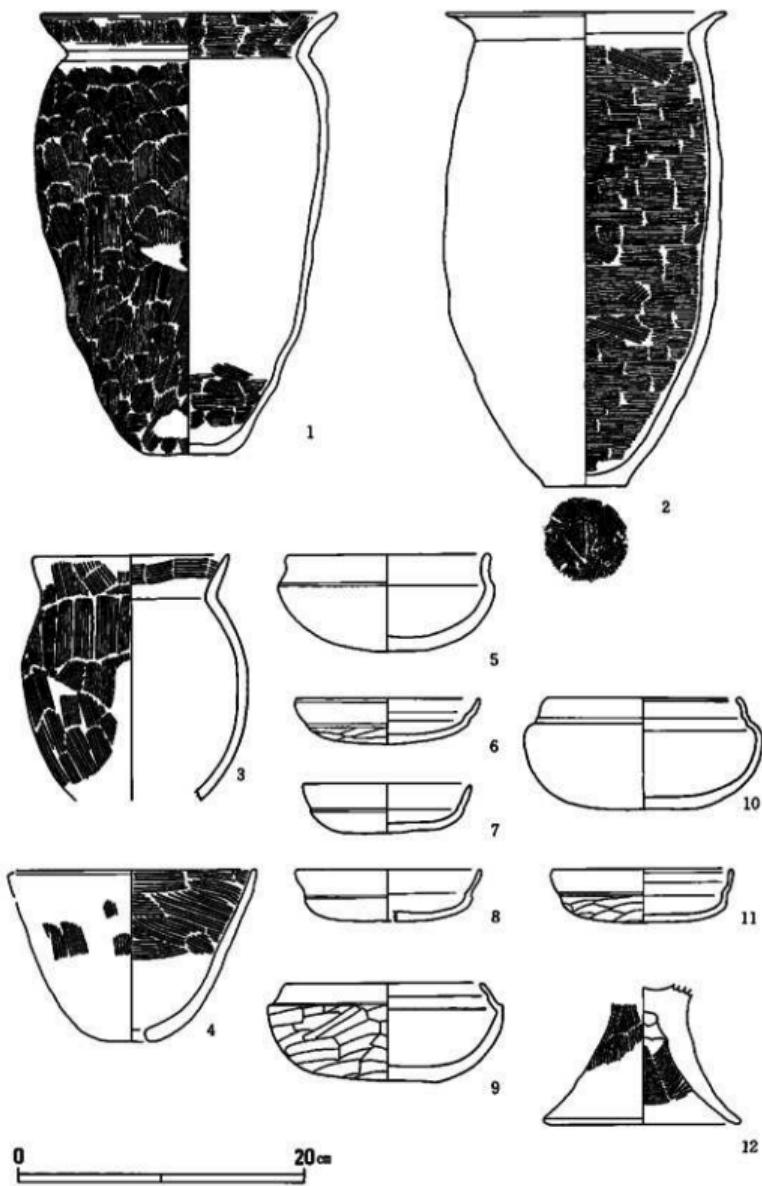
新居道下遺跡では3年度にわたる発掘調査により48もの住居跡やその他の数多くの遺構が確認された。とくに大量に出土した平安時代と古墳時代の遺物は、この地域での今後の研究における重要な基礎資料となるものであろう。また、このような大規模な集落遺跡の調査も若草町ではもちろんのこと、陝西地域でも初めてのことであった。今後の整理作業によって得られる新しい成果に期待したい。



第4図 2区全体図



第5図 45号住居跡出土遺物 (1/2)



第6図 46号住居跡出土遺物 (1/2)



圖版1 45號住居跡



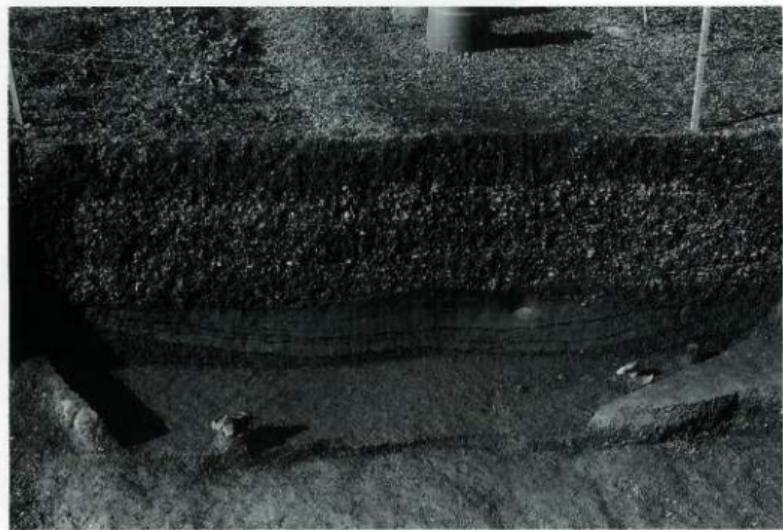
圖版2
45號住居跡出土遺物（1）



圖版3
45號住居跡出土遺物（2）



圖版4 46號住居跡



圖版5 47號住居跡

調査組織

調査主体 山梨県教育委員会
調査機関 山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者 米田明訓（山梨県埋蔵文化財センター副主査文化財主事）
高野政文（山梨県埋蔵文化財センター主任文化財主事）
作業員・整理員 秋山松義、雨宮みづ枝、有泉誠子、石原敬子、井上千恵子、遠藤正美、大法ひろ子、小野一光、小野良治、木下和子、木下葵江、功刀とよ子、功刀正彦、齊藤玲子、坂井美代子、佐久間春江、佐久間等、沢登郁江、沢登五恵、沢登よね、塙沢由樹子、島津志ず枝、島津忠義、清水正宏、志村住子、志村むつみ、田中市平、塚田ひろ子、都築いつみ、時田わか、中込ともえ、中込久子、中込二三子、二宮明雄、花輪壽枝、花輪操、原伊津子、北条貴人、望月祐子
協力者・機関 若草町教育委員会

報告書概要

フリガナ	アライミチシタイセキ		
書名	新居道下遺跡		
副題	一般国道52号（甲西道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報		
シリーズ	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第89集		
著者名	米田明訓・高野政文		
発行者	山梨県教育委員会 建設省甲府工事事務所		
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター		
住所・電話	〒400-15 山梨県東八代郡中道町下曾根923 TEL 0552-66-3881		
印刷所	合資会社 ヨネヤ印刷		
印刷日・発行日	平成6年3月22日・平成6年3月30日		
新居道下遺跡	所在地	山梨県中巨摩郡若草町十日市場	
	25000分の1 地名・位置・標高	小笠原	北緯 35°36'27" 東経 138°29'02" 標高 270m
概要	主な時代	弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代	
	主な遺構	住居跡、溝跡、掘立柱建物跡、土坑	
	主な遺物	土器類、弥生土器	
	特殊遺物	なし	
	特殊遺構	なし	
調査期間	平成5年9月1日～12月27日		

山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第89集

1994年3月22日 印刷

1994年3月30日 発行

新居道下遺跡

編集 山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曾根923
TEL 0552-66-3881

発行 山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所

印刷 合資会社 ヨネヤ印刷
